

[花き部門]

2. 暗期中断処理を用いた夏秋需要期連続出荷に利用可能性が高い小ギク品種

[要約]

自然日長下での発蕾時期が早く、暗期中断処理下で発蕾抑制しやすい、7～9月の需要期に連続出荷できる可能性が高い夏秋小ギク16品種を選定した。

[担当] 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

夏秋小ギクの生産においては、夏秋需要期（7月の新盆、8月の旧盆、9月の秋の彼岸）に出荷しようとする生産者は、それぞれの出荷時期に合わせて自然開花期の異なる品種を複数栽培している。そこで、コスト削減、軽労働化を目的に、同一品種による夏秋需要期連続出荷を目指して、自然日長下での発蕾時期が早く、暗期中断処理下での発蕾抑制効果が高い品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

- 1．種苗会社などから得た、延べ118品種の挿し穂及び発根苗を、順次、挿し芽及び定植を行い、自然日長下及び暗期中断処理下で栽培すると、41品種が、自然日長下での発蕾時期が早く、暗期中断処理下での発蕾抑制効果が高い（データ省略）。
- 2．有望視した41品種を用いて、親株の管理条件を統一して、採穂、挿し芽及び定植を行い、自然日長下及び暗期中断処理下で栽培すると、16品種が、自然日長下での発蕾時期が早く、暗期中断処理下での発蕾抑制効果が高く、7～9月の需要期に連続出荷できる可能性が高い（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．夏秋小ギク生産者が、電照栽培に用いる品種を選定する際の参考になる。
- 2．岡山県赤磐市における結果であり、各栽培地域での適応性の検討が必要である。

[具体的データ]

表1 暗期中断処理が夏秋小ギクの発蕾日に及ぼす影響 (2011年度)

		自然日長区の50%発蕾日(月/日)						
		5/11 ~ 5/20	5/21 ~ 5/31	6/1 ~ 6/10	6/11 ~ 6/20	6/21 ~ 6/30	7/1 ~ 7/10	7/11 ~ 7/20
暗期中断処理による発蕾遅延日数(日)	5以下	玉姫	つかさ, たそがれ(参考)		みさと, 金時(参考)			
	6 ~ 15		精のりか, 釣舟,白鳥	いちよし	千代, 水雲	翁丸,舞人, しんざん, 木馬,糸子, 精やさか	マーメイド, 精あかり	
	16 ~ 25		白霧(白)	いそべ(白), 精しまなみ(白), 精雲(参考)	精はづき(紅), 星娘(紅), やよい(紅), こがね(黄), ほたる(黄), はるな(黄), ささやき(黄)	はじめ		白帆
	26 ~ 35			精こまき(黄)		精えびな	さぬき,たけこ, のんこ	
	36 ~ 45				すばる(黄), 精いなり(黄)	精ひなの		
	46 ~ 55				朝風(白)			
	56 ~ 65			はるか(黄)				
	66以上				精ちぐさ(紅)		静江	

注) 太線より左下が選抜品種

親株は、前年の切り下株を用い、12月上旬にサイドを開放したビニルハウスに移植した後、1月下旬から加温開始温度2℃、3月下旬から5℃とし、加温開始時から深夜6時間の暗期中断を行った

挿し穂は4月12~13日、定植は4月28日、摘心は5月6日に行った

暗期中断区では、挿し芽~定植時は深夜6時間、定植後は深夜4時間の暗期中断を行った

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した夏秋需要期キク安定開花調節技術の開発

予算区分：受託(気候変動プロ)

研究期間：2010~2014年度

研究担当者：森義雄、藤本拓郎